校 長 室 だ よ り（No.11）

令和４年６月21日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

地域人権交流集会

丹波市立氷上文化センターの相談員の方から人権についてお話を聞かせていただきました。

～　「人権」てなんだろう　～

「人権」という言葉から受ける印象は、「大切なもの」また、「守られるもの」「すこし堅苦しいもの」といったものが多く出されます。「人権」とは「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」です。

子どもたちなら「自分や友だちの命を大切にすること」、「別けへだてなくみんなと仲良くすること」と考えたらよいと思います。自身の身近なくらしのなかから課題を見つけて自分のこととして考えていくことが必要です。新聞報道等からウクライナの人々について、駐車場の障がい者スペースの意味について、また、点字ブロックとその意味について子どもたちと考えました。

～　気づくことの大切さ　～

人権に関しての知識が持てたら、人権や差別に関して、おかしいことや間違っていることに気づき、考えていくことが大切です。一番怖いのは無関心です。日本では、主な人権課題として16の課題があげられています。そのいくつかについて一緒に考えました。

子どもたちの身近なものとして「いじめ」問題があります。いじめを苦にした自殺や不登校も問題になっています。児童虐待も深刻な問題です。親の養育放棄で子どもが衰弱死した例も報じられています。学校等での体罰で中学生が重傷を負ったこともあります。インターネット上のいじめも多く発生しています。まずは、自分たち自身が一人の人間として最大限に尊重され、守られなければならない存在であることを理解しました。

障がいのある人に関することも、子どもたちにとっては、身近な問題です。障がいのある人が車いすでの入店を拒否されたり、電車、バスなどへの乗車を断られたりする事案も発生しています。障がいのある人に対する理解や配慮は十分かについて考えました。

この他にも、女性というだけで社会参加や就職の機会が奪われること、高齢者が虐待をうける事案、同和問題、アイヌの人々に対する差別、外国人であることを理由に不当に差別される例、HIV感染者・ハンセン病患者等への偏見・差別、刑を終えて出所した人などに対する就職差別等、犯罪被害者やその家族への中傷、インターネットによる人権侵害、ホームレスとなった人々に対しての嫌がらせや暴行を加える事案、性的指向への差別、性同一性障害者への無理解から来る偏見・差別、北朝鮮当局によって拉致された被害者等の問題、人身取引（トラフィッキング）があげられます。

６年生の子どもたちは、これから様々な人権問題と出会い、人権感覚を養っていきます。中学生になって、今日、集ったメンバーがもう一度出会うときには、それぞれがさらにお互いを大切にできる人になっていることを願っています。